

聖霊降臨節第 12 主日礼拝説教要旨(8 月 9 日)

『二つの掟』 早川 真牧師

マルコによる福音書 12:28-34

神がご自分の民に求めておられることはまず神の言葉を聞くということです。そして神が唯一のお方であるということ、その神をあなたの全てをもって愛しなさいということでした。

イスラエルの民の原点は、モーセを通して語られた「聞け。」という言葉でした。ユダヤ人はこの申命記の言葉、「シェマ（聞け）、イスラエル」を今でも朝夕に唱えているそうです。それは神の与えようとしておられる祝福を朝に夕に思い出すためでありましょう。

一方クリスチャンの原点は、十字架の言葉です。「あなたは神ご自身が命を捨てても良いというほどに愛されている。」「あなたの罪は全て十字架によって赦されている。」「あなたは新しく造られた者として、神と人を愛して生きて行くことができる。」私たちはこの十字架の言葉を朝ごとに新しく聞く必要があります。私たちは今朝それを聴くために集っていると行って良いでしょう。そして私たちがその神の愛を受ける時に、私たちも神と人を愛する者へと造り変えられていきます。神を愛し、隣人を愛しなさいというこの二つの掟の大前提は、まず神があなたを全身全霊で、隣人としてご自分のように愛してくださっているということです。信仰生活は、この神の愛への応答です。

罪に苦しむ私たちのために愛する独り子を送ってくださった天の父なる神様。自分の命をも捨てて私たちを愛してくださったイエス・キリスト。そして私たちの内に住み、私たちをキリストの道に歩ませてくださる聖霊。この神の愛にいつも立ち帰り、神と、神の愛して止まない私たちの隣人を愛する歩みへと、共に導かれてまいりたいと思います。